



日本記者クラブ 研究会
「ウイグル情勢」

中国ウイグル暴動の真相に迫る

水谷 尚子

中央大学講師

2009年7月15日

新疆の面積は日本の3・5倍

ここ数年、私はウイグル人の亡命者にいろいろな聞き取りをしております。私を知る今回の暴動の状況と現在の新疆ウイグル自治区が、どういう所かなどについてお話しするということで、依頼を受けました。

新疆ウイグル自治区は、中華人民共和国の一番西の端に位置し、日本の約3.5倍に当たる166万平方キロの面積があり、中国の国土の約6分の1を占めます。この面積は、中国の省・自治区のうち最大の広さです。

地理を申しますと、北のアルタイ山脈がロシアとの、南の崑崙山脈がチベットと自然の境界をなします。北新疆にはジュンガル盆地、南新疆には中国最大のタクラマカン砂漠を含むタリム盆地が広がっております。ロシア、モンゴル、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、アフガニスタン、パキスタン、インドの8カ国に国境を接し、中国にとっては国防上、大変重要な立地になっています。

900万人いても少数民族

この地の先住民で、新疆ウイグル自治区人口の多数を占めるウイグル人は、現在、約900万といわれております。その数は、隣国カザフスタンのカザフ人とほぼ同数です。やはり隣国であるキルギスのキルギス人やタジキスタンのタジク人は、ウイグル人よりはるかに人口が少ない。中国は独自の民族文化を持つ大規模な集団を、政権の中枢を占める漢民族が主体の国家の中に組み入れてしまったこととなります。中国内では少数民族と呼ばれていますが、ウイグル人は世界的に見たならば、決して少数ではないということが言えると思います。隣国カザフスタンの多数派であるカザフ人（注・約57%、約880万人）と同数のウイグル人がいることを考えたら、決して少数ではないわけです。

ウイグル人は漢人文化に属さず

次に、ウイグル人は、どういう人だろうという話をしたいと思います。

ウイグル人はテュルク系のムスリムといわれます。つまり、漢人の文化圏には属しておらず、中央ユーラシアからトルコに至るまでの地域に広がっているテュルク系の民族にアイデンティティーを持っております。言語、習慣ともに、漢民族よりも中央ユーラシアあるいはトルコまでの地域の人たちと極めて近い文化を持っております。

例えば、彼らの中で流行する音楽にせよ舞踊にせよ、漢民族のそれではなくて、中央ユーラシアの流行と共有しているわけです。

ウイグル人と同じようなテュルク系の言語は、中央ユーラシア一帯で使用されております。ちなみに国境は接してないのですけれども、ごく近くにウズベキスタンという国があります。ウイグル語とウズベク語というのは言語的には、東京弁と大阪弁ぐらいの違いしかありません。そのくらい、中央アジアの民族にウイグル人は近いということです。

国を持たない巨大な少数民族

現在、新疆に住む6つの民族が隣国と国境を接しています。つまり、中国の少数民族といわれるロシア族、モンゴル族、キルギス族、カザフ族、タジク族などです。

国境こそ接しないのですけれども、中国の少数民族ウズベク族も、近くにウズベキスタンを持っております。また、中国の少数民族として存在しているタタール族、これもロシア連邦内に共和国を持っています。このように、中央ユーラシアにおいて、現在国家を持たない巨大な民族集団といえばウイグル族ということになります。

民国時代に2度、「独立」を宣言

この地域が領土として中国という民族圏、組み入れられたのは、満州人の王朝であった清の乾隆帝以降、18世紀半ば以降です。中国、中華圏に統合された国家統治の歴史というのはそれほど古くなく浅い、ということが言えると思います。

その後、辛亥革命で清王朝を滅ぼした中華民国は、清の領土を自動的に引き継いでおります。その後、あの地域も中華民国の領土となるのですが、その間、民国期に、現在の新疆では2回、独立を宣言しています。

1回目は1933年、「東トルキスタン・イスラム共和国」。これはカシュガルやホータン（中国語で「和田」）という南新疆を中心とした国。

2回目は、1944年、現在の北新疆、グルジャ（中国語で「伊犁（イリ）」）を中心とした「東トルキスタン共和国」。これらはいずれも短命に終わってはおりますが、独立を宣言し、それぞれに独自の憲法を持っていたことは確かです。

過去半世紀で大量に増えた漢族

第二次世界大戦と国共内戦を経て後、中華人民共和国が建国された1949年、人民解放軍が新疆に進駐し、中国の影響下に置かれたわけです。新疆に進駐した解放軍の王震（1993年、84歳で死去。〈八大元老〉と呼ばれた）らの部隊は、多くが内地に戻らず、共産党側に投降した（中華民国）国民政府軍の兵士とともに、辺境開発に携わった。この時代から漢民族の流入が大規模に始まりました。

1949年の時点で、当時の新疆では人口の約76%がウイグル人だったと言われております。ウイグル人のほか、カザフ人、キルギス人などのテュルク系民族と、ペルシャ系民族のタジク人などと合わせ9割を占めていた。漢人は1949年段階で6%しかいなかったと言わ

れています。

これに対し、2003年のデータですが、新疆におけるウイグル人の人口は46%、漢人は40%に増えています。ここ半世紀ぐらいの間に、人口比のバランスが大きく変化したということが言えると思います。

地元支配が及ばない「生産建設兵団」

話をもう一度1949年に戻します。新疆に流入した解放軍兵隊たちは、1949年から「新疆生産建設兵団」と正式に称するようになりました。辺境開発に従事した兵士らは、ずうっと新疆に根づいて現在に至っています。

「兵団」というのは、新疆を知る上で重要なので、少し話しておきます。

「兵団」は新疆各地に「団場（トゥワンチャン）」と呼ばれる施設を所有しています。この総面積は7万平方キロを超え、台湾島二個分に相当します。現在では14個師団、185個連隊という構成で、総人口254万人のうち、9割が漢民族だと言われております。

「兵団」は、新疆最大の漢民族集団だと言っても構わない。これは解放軍とは別の組織で、いわゆる辺境防衛軍を兼ねており、自治区政府の支配を受けません。新疆ウイグル自治区内にある土地で、台湾2個分以上の領土が、地元政府の支配を受けずに中央から直接に指示を受ける。そういう組織が新疆の中に存在するわけです。この兵団は省とか自治区などと同格で扱われております。

例えば「兵団」の部隊は、新疆で何かの暴動が発生したら、鎮圧部隊として動員されたり、ウイグル人政治犯の取り調べなどに駆り出されたりもします。このため地元ウイグル人たちには、かなり評判が悪いのです。

漢民族は「兵団」の中でしか生活しないので、彼らが少数民族に嫌われていること自体を理解していない「兵団」育ちの漢民族も少なくありません。これは双方にとって、かなりの悲劇だと思われま

ちなみに、「兵団」の人たち、つまり漢人の入植者というのは、主に北新疆に工業都市を建設しています。例えば有名なところでは、石河子（シーホーツ＝「兵団」の中心地）などで、農業開発や工業開発をしました。

これに対し、新疆南部はウイグル人の多い地域で、中国全体から見ても赤貧地帯です。新疆内で暴動が起こるといったら、この南新疆の貧しいホータンなど、あるいは北新疆の中でもずっと北方の、昔、東トルキスタン共和国の首都であったイリなど発生することが多かったのです。今回は、くしくも区都ウルムチ、ここは漢民族が圧倒的に多く、ウイグル人が少ないのですが、こういう所で起こったのが一つのポイントと思われま

中東諸国とは異なるイスラム

ウイグル人が信仰するイスラムは、スンニ派ですが、サウジアラビアとか中東諸国のそれとは随分様相が違います。ウイグル人がそもそもイスラム教を受容したのはかなり遅い話でして、10世紀中ごろにイスラムが中央ユーラシアのテュルク系の人々の間に入ってくる。新疆のトルファン——今回の暴動が起きたウルムチからそう遠くない都市——では、15世紀初めには、まだ仏教徒が半数以上いたと言われています。

しかし、15世紀後半になって、ほぼ現在の新疆全域にイスラム化が完了しています。このようにイスラム化は、かなり遅い時期であること。

西トルキスタン、つまり現在のカザフ、ウズベキスタン、キルギスなどの旧ソ連圏で独立したテュルク系の民族の多い地域は、ずっとソ連に支配されていました。現在の「東トルキスタン」とウイグル人が呼んでいる新疆ウイグル自治区は、中国共産党に支配されており、共産主義者による統治下の時代も長く続き、イスラムと言っても、他の地域とはかなり異なったイスラムの文化があるわけです。

そもそもテュルク系民族にとってのイスラ

ムは、相当に寛容です。例えば、ウズベキスタンに太陽や動物が描かれているモスクがあります。私はそれを見た時、仰天しました。なぜなら、イスラムは本来、個人崇拝をしません。しかし、そこにはイスラム聖者の個人崇拝の風習があったのです。だから、イスラムといっても、かなり中東のものとは様相が違

新疆の場合には、シャーマニズムのような習慣が残っています。ですから、この地域に原理主義が深く浸透する余地が、どこまであるのか。私は非常に微妙だろうと思っておりま

中国共産党の宣伝では、この地域のイスラム教に対して、テロ集団であるという言い方をしております。しかし、原理主義者というよりも、反政府運動を進める上で、イスラム教を拠り所とせざるを得ない状況にあり、そういう人たちがイスラムの号令の下に動くことによって身を挺しているのではないか。あの世に行けば幸福になれると信じ、無差別な攻撃をしているというように。

それから、不特定多数を狙うというアル・カーイダなどのテロ行動と、ウイグル人による破壊行為は、一線を画して考えなければいけないのではないか。ウイグル人たちの中で、反政府運動をやるイスラムを信じる人たちの目的や対象は限られている。

そういう面で、あの人たちを中国政府のいうようなテロリストであり、そうした概念で断定して良いのかどうかは、私はさらに議論の余地がある、と考えています。

ちなみに、ビンラディンのもとに行って、軍事教練を受けたとされる人がいます。彼はウイグル人で、後にパキスタン軍に射殺されたのですが、私は、彼のイスラムの師匠であったという人に会って話を聞いています。この人は長い亡命生活のうちに考え方がだんだん変わったということもあるのですが、かなり合理的な考えの持ち主です。私は女性の異教徒ですが、会って普通に話をしてくれましたし、食事を出してくれたりもしました。彼は「別にイスラム法に則った国を創ろうなどとは思ってない。ウイグル人が独立を果たせたら共産党の国だっ

いいのだ。とにかく今のように我々の土地で漢民族に支配されなければ、それでいい」という言い方をしていました。

そんな話を聞いていましたので、新聞の中で、新疆内で破壊行為を行っている人たちを、深い考察なしに、テロリストだと断定調に書いているところが多く、もう少し検討すべきではないかなと思っています。

当局発表とは違うウイグル人情報

今回の暴動の話に移ります。私がさまざまなウイグル人の話を聞いて知り得たことで、随分いろいろな情報があります。日本の新聞などで報道されていない話を中心にしていきます。それが確かかどうかは、私も申し上げることはできません。中国政府の発表とウイグル人によって伝えられる情報のどちらが正しい、どちらが間違いだということは、第三者の立場からして申し上げることはできません。

しかし、ウイグル人側のさまざまな情報を収集して、ウイグル人がどのように見ているのか、どういう情報を得ているのかという話は出来ると思います。

6月26日に広東省韶関で2人のウイグル人青年が殺されたことが、今回の暴動の直接のきっかけになった。これは新聞各紙が書いていることです。広東のおもちゃ工場に新たな格安の労働力として雇われたウイグル人たちが、解雇された漢人の恨みを買った。それが原因ともなり、ウイグル人が漢人の女性を強姦したということ漢人がネット上に流した。それで、漢人たちの怒りが爆発してウイグル人を撲殺する事件が起こった。

後に、どうもそれはデマだったのではないかというようなこともいわれておりますが、真相は定かではありません。とにかくウイグル人が殺されたのは、映像が残っており、確かだと思われます。

別の情報、つまり当局発表ではない例えば(在米華人ネット)「博訊」などに掲載された

さまざまな情報を総合すると、このとき、当局は2人が殺されたといっています。18人が殺されて、うち12人がウイグル人で、6人が漢人。そして、どちらの民族かはよくわからないのですが、ウイグル人だと思われる女性2人もその中に含まれていたという情報があります。ウイグル人社会のみならず、漢人社会でもみた人たちがいる。どうもこちらのほうが正しいのではないか。漢人社会、ウイグル人社会ともに言われている。

動画やラジオ番組での証言相次ぐ

この事件に関しては動画や写真が随分出回っております。写真には、どうみても死んでいると思われる3人が写し出されておまして、うち1人は明らかに女性でした。それから考えても、男性2人が殺されたというのは本当に正しいのだろうか、私のほうも疑問に思っております。

ちなみに、このとき、漢人に襲われた労働者、ウイグル人の600人は別の場所に移されています。数日後、(米国政府系の)「ラジオ・フリー・アジア(RFA)」が、ウイグル語番組の中で、この隔離されているウイグル人たちにインタビューし、彼らは「自分が見ただけでも5~6人が殺されていた。犠牲者には女性もいた。自分は命がけで山を目指して逃げた」と、証言しておりました。

この事件をいろいろな動画サイトなどでウイグル人が観ていた。とくに区都ウルムチでは、ほかの地域よりもウイグル人自体の学歴も高いこと。インターネットを観る環境にあることなどもあって、他地域以上に若者たちの間で、「これはひどい」というような意見が沸々と起こってくるわけです。

例えば、ウルムチの青年たちが新疆で広東の事件と同じことを漢人に対してやったら、大勢の逮捕者が出る。しかし、襲った集団に対して広東省政府側は誠実に対応してない。大勢の人が殴るけるをしているので、大勢の逮捕者が出てもいいのに、ろくに逮捕者も出さない。これ

が、10日ぐらいたった後のウルムチの暴動につながっていくということになります。

デモの真相について

7月5日（日曜日）午後5時ぐらいにデモがあったといわれるのですが、このデモより数日前に、当局が指摘する亡くなった2人の青年の遺体がカシュガルに戻されたのです。ウイグル人側の情報によると、当局者は家族に、「酔っばらって、けんかで死んだ」と報告したと言われております。死の理由を知った家族が嘆き悲しんだわけですね。その後、ちょっと詳細は不明ですが、その家族が、どのような理由で、だれが呼んだのかはわからないのですが、金曜日か土曜日にウルムチにやってきた。その後、ひとが集まり、政府にきちんと責任を持って犯人を逮捕し、処罰してほしいと言い出した。遺族も含め。そして、ウルムチのウイグル人側の世論も盛り上がり、新疆の各大学の学生たちがデモを始めるといような成り行きだったそうです。

初期の段階、午後5時台のデモが始まったときの写真が、ミュンヘンにある「東トルキスタン情報センター」に流れております。この時点で集まった若い青年たちというのは、中国共産党の五星紅旗を持って静かに歩いているのです。つまり、学生たちは、遺族を支援するという形で5時台に人民広場に集まった。集まったとき、大体数百人だったといわれている。彼らは、「政府を信じている、こんな不平等なことをしないでくれ」、「信じているから、正しい裁判をし、この問題を解決してくれ」という意味で、五星紅旗を持って集まったといわれております。

しかし、集まったと同時に、公安警察がやってきて解散を促した。新疆では、届け出をしなければ、集まるだけで違法集会を開いたとして逮捕されます。公安の解散命令に応じないで押し問答を続けていると、学生たちが知らないうちに、やや年配の人たちがやってきて、非常に公安の対応に怒った。投石や破壊行為をやる

というような過激なことを言い出す集団も現れた。だんだん人がふえてきて、初め数百人だったのが、本当かどうかわからないのですが、1万人というふうに膨らんでいった。そのうち、投石などをやる人も出て、エスカレートした。

そのうち、人民広場の三方向から人民解放軍が現れ、一斉に銃撃を始めたといわれております。

時間的に、新聞各紙では大体9時ごろと書いているのですが、この辺は情報が錯綜していません。私がウイグル人に聞いたところでは、銃撃を始めたのは午後10時近くじゃないかという説もあります。証言した人は一体ウルムチ時間でいつているのか、北京時間でいつているのか、ちょっとわからないので、私も銃撃が始まった時間については掌握しておりません。ただ、午後10時から午前零時の間、かなり大きな衝突などもあって、深夜から未明にかけて鎮静化したといわれております。

暴動への参加者は外部の商人

とくに暴動に加わった人たち、破壊行為をした人たちは、デモを企画した学生たちとはちょっと違う。ウルムチで生まれ育ったのではなく、外部からやってきた小売商たちだったといわれております。

地方で、仕事もなく生活も苦しい。それこそ、広東などに出稼ぎに、強制的にというか、半強制的に、安い賃金で行かざるを得ないような若者たちが怒って、いろいろなものを破壊したというのが真相ではないかといわれております。

少しでも小金を稼ごうとウルムチにやってきた30～40代の商人たち、それに加えて、ウルムチの一般の市民たちが、こういうような騒ぎに参加することになったといわれております。

銃を向けられて死んだ人は、学生たちのほかに小売の商人たちだといわれております。事件の2日後ですが、デモに集まった1人で、撃たれた現場をみて逃げ出した人物の証言があり

ます。

RFA のウイグル語番組で報道されたものですが、この男性は次のように証言しています。

放送された時点で、150人が死んだと当局発表があったのですが、私が目撃した時点で、目の前で死んだのは200人を絶対に超えていたと。どんどん倒れる人が増え、そのうち、丸い広場の3つの方向を解放軍が占めて、銃を撃つらしいが、放射線状にクモの子を散らすようにみんなが真ん中から逃げていった。

それから、逃げた人たちが各地に散らばって行って、余計に怒って、バスに火をつけたり、人を襲ったりとかが発生したと述べていました。

漢人の報復暴動について

それ以外に、翌日6日から、今度は漢人が暴走を始め、暴動を起こすようになっていきました。本当かどうか、私も何ともいえないのですが、新疆医科大学で2人の女性が殺された。ウイグル人女性は髪が長い人が多いのですが、見せしめに、殺された女性の首が髪の毛で門のところにつられていたというような話も出ていました。裏がとれない話なんです、そういう話もあったということです。

ウイグル人たちが訴えるのは、国を挙げて一つの民族が悪い人間だと主張しているし、広東の事件もきちんと対処していない、と。

漢人は何をやっても裁かれない。そういう認識を漢人に持たせてしまった。これは中国共産党政権の最大の失政、罪ではないか。在日ウイグル人の多くが話しています。

漢人の“デモ”報道への違和感

先ほどの話にもう一回戻しましょう。6日に、どんどんウイグル人が拘束されていきます。拘束者は、新聞や当局の発表では1500人を超えると言われております。一軒一軒各家に入ってきて、連行していった。6日、7日ともに漢

人の暴動が起こる。私が一番違和感を持ったのは、日本でも鉄パイプなどを持って集まった場合、それだけで警察に逮捕されるわけなのに、新疆ではそういう漢人集団のデモが起きた。これはデモではないのではないかと。

報道云々よりも、人間としての常識が欠落しているのではないかと。非常に違和感がありました。これをデモと呼んでしまうのは、かなりまずいのではないかと思います。

私は確かに、どちらかといえば当局側でなく、ウイグル人側の声を伝えてきたのですが、極力バランスを取って事に当たろうと心がけてはおります。ただ、この件については大分違和感がありました。

漢人警察とウイグル人警察の対立

再度、話を戻したいと思いますが、7日にモスクが焼かれるのです。ウルムチの中で一番大きくて、また、ウイグル人が多く住んでいる町にも近いモスクがある。これが焼かれ、死者が出ました。中でこっそり祈っていたウイグル人が殺された。焼死なのか、よくわかりませんが、殺されて、モスクの前の道に置かれていたという情報があります。

7日には、在ウルムチのウイグル人などからの情報によると、公安警察同士での小競り合いもあった。発砲に至ったか、警棒での殴り合いに終わったのか、その辺はわかりませんが、漢人の公安とウイグル人の公安の対立が、このモスクの近くで起こったという証言があります。

話は前後しますが、現在、中国人民解放軍とか武装警察の中に、ウイグル人は非常に少なく、政府はウイグル人に武器を持たせたり、武器を使う方法を教えないよう非常に努力している。ウイグル人の公安は、地元の治安を維持するための公安警察です。これに対して、鎮圧部隊として出たのは、ほぼ漢人だと思ってい。ここで対立したのは、駆り出された解放軍や武警ではなく、地元の公安警察同士の対立だったと言われています。

未確認情報ですが、外の町でも、例えばカシュガルあたりでは、小学校に漢人が押しかけて子供を刺殺したという報道も RFA などでありました。昨日も、RFA で、グルジャ（イリ）で中国当局が約 70 人を拘束していると言われていました。

ウイグル人たちはどこかに逃れようと思っても、パスポートを取るのも非常に大変なんです。漢人だったら 1 日で取れるのですが、ウイグル人の場合、漢人の公安警察に高額な賄賂を渡したり、あちこちの公安局で自分は安全な人間だという証明書をもらわなければいけない。まず地元の警察や市であるとか、あるいは区であるとかの単位、自治区の公安、いろいろなハンコを山のようにもらって、やっとパスポートが取得できるというのがウイグル人の現状です。

そんなにつらいのなら、外国に行けばいいじゃないかと、我々は簡単に思いますが、そういう問題ではない。国から出るのも非常に大変な状況です。

ラビア首謀説への素朴な疑問

次に、当局の発表と、現在のウイグル人の在外団体のことについて、お話ししましょう。

ちなみに新疆ウイグル自治区の最高の権力者は、中国共産党委員会書記である王楽泉です。その次のナンバー 2 は、ウイグル人で、自治区首席のヌル・ベクリです。この人は、「世界ウイグル会議」を率いるラビア・カーディルが、デモを扇動したと公式に言っております。

しかし、私はこの種の報道についてはかなり疑問を抱かざるを得ない。少なくとも、ラビア・カーディルさんに直接インタビューした経験や、今回の暴動が発生した後にも何度か彼女と話をしているのですが、とても在外組織があるような大規模なデモを行える力はない。

つまり「世界ウイグル会議」ひとつをとっても、在外のウイグル人を束ねることでさえ大変なんです。ウイグル人の中にもいろいろな考え

を持つ人たちがおります。それらの人々を一つに束ねて、一つの運動体にしていこうという段階で、ラビアさんは相当苦心しています。

また、ラビア・カーディルさんに対して不満を持つウイグル人もいるわけです。ウイグル人の中にも、平和的に外国の力を借りて、新疆の平和や人権を訴えていこうという集団もあれば、ある程度の暴力的手段もやむを得ないと考える人もいます。両方いるわけです。

このような在外ウイグル人の意見を統合することさえ苦心しているラビアさんが、これだけ大規模なデモを中国内で組織することは、100%あり得ないでしょう。

あくまで、あれは中国内でのさまざまな矛盾から発生したものであり、国内のウイグル人たちの不満を鎮圧し、在外ウイグル人の独立とか、反中国政府的な運動を鎮圧する、両方の目的を持って発表したとしか思えない発表だと考えています。

検証不足に陥る亡命団体

在外ウイグル人の組織自体にもいろいろ問題があると私は思っております。例えば今回、ラビア・カーディルさんは随分批判されている点が 2 点あります。

1 つは、誤った写真を使った。もう 1 つは、湖北省の農民たちの暴動に警察が出てきたときの写真を使って、ウルムチの暴動の写真だと述べたという。

この写真を最初に使ったのは、実はラビアさんではなく、RFA なんです。RFA が使ったから、ラビアさんはそれを持ってきたのです。ラビアさんにせよ、RFA も細かい検証面で、どうしようもなく脆弱な部分がある。

例えば、ドイツ語の『ラビア・カーディル伝』があります。私はドイツ語はできませんが、いま日本語の翻訳文を、監修しているのですが、どうしてこの本が出てしまったのだらうと思います。

日本語版では、私がかかなり訂正を加えていま

すが、細かな間違いがある。例えば人名、組織名、それから年号の間違いなど随分たくさんある。

運動団体であり、中国当局と対抗するなら、中国当局に指摘されないようにすべきと思うのですが、検証部分が非常に弱い側面がある。

亡命者というのは食べて行くだけでも大変です。運動の中で、時間をかけて細かいことをやって行こうなどという人はなかなか現れない。運動家の人は、奥さんに食べさせてもらっているような状態で運動をしている。

亡命政権側の情報の扱い方

RFA にしても、本当にマスコミの勉強をした、いわゆる新聞学の勉強をしたという人物は、少数というか、いないに等しい。新疆で知識人だった人がやっているのですが、日本のメディア業界では考えられない、ジャーナリズムの心得を知らない人たちも多い。それを批判しても仕方がないと思っています。

というのは、こういうことが起こったときに頼る相手は、RFA や「東トルキスタン情報センター」のような組織しかないわけです。彼らが駆け込んで情報を一生懸命流そうとするのは、問題を抱えても、そういう組織なわけです。だから、我々がそういう情報を報道する場合、こちらの方で取捨選択しないと危ないと私は考えております。

そういう問題はありながらも、でも、上質の情報が入ってくることも確かですから。

在日ウイグル人組織について

今回、日本でも亡命ウイグル人たちのデモが起きたのですが、日本での状況について話したいと思います。

ウイグル人が中国大使館などへ抗議行動を起こすことは、これまでなかったのです。今回、かなりの数のウイグル人がデモに参加しました。日本には家族含めて1000人近くウイグ

ル人がいるのではないかとされているのですが、そのうち約40人が中国大使館前のデモに参加した。

そのうち、30人ぐらいは顔を出した。マスクや帽子で顔を隠したのは約10人。女性は10人いた。その後、彼らから話を聞いたところ、今回のデモに参加したのは、非常事態だからだったと。ただし、今後、「日本ウイグル協会」に入るかといえば、それはまた別問題である、とも。新しい組織をつくるかといったら、現時点でもそれは考えてはいないということをおっしゃるわけですね。

ご存じかどうかわかりませんが、私は「日本ウイグル協会」に関してはかなり批判しております。私は「日本ウイグル協会」の周辺の人間から、かなりネット上でたたかれたりしております。なぜかと言うと、「日本ウイグル協会」は、現在、イリハム君1人がウイグル人なんです。イリハム君を助けようという、顔を出さないでイリハム君の周辺にいる人たちは、ウイグル人がいることは確かです。実際のところ、活動しているウイグル人は、彼1人です。あとの参加者は、すべて日本人です。彼らは左翼過激派の元活動家とか、右翼の元活動家、成田闘争で火炎瓶を投げた人たちです。現役の中核派の活動家もいるようです。いずれにせよ、残念ながら、中国に対して、左右から意見がある人たちの集合体になっています。

そういう形での中国への抗議は、全く意味をなさないと考えております。以前、私が取材したことがある中国の反日団体の「保釣連合」とか、ああいうものに近いものを感じており、心を痛めております。

日本人に何ができるか

今回の暴動のようなものが発生した場合、第三者である我々日本人は、やはり公平に事に当たらなければいけないと思うわけです。中国に対して、頭から「ぶっつぶせ」というような言い方でいうと、全く戦時中の日本と同じことになる。私はこう考えているので、彼らからは非

常に嫌われています。

また、日本がアジア諸民族の頂点として彼らの解放を援助するというような、日中戦争期のような発想で問題にかかわることは、決して我々にとって良くないと考えています。

どうすれば良いかと考えたら、現在の日本の社会や政府にも問題があると思っています。ウイグル人が顔を出して運動ができないというのは、やはり日本の社会や日本の政府が問題だからです。

例えば欧米であれば、政治的亡命者をきちんとかばって、中国に帰らなくてもいいように、受け入れているわけです。けれども、日本は、そういう面は非常に冷たい。

そもそも日本は、中華人民共和国からの亡命者を基本的に受け入れないことになっています。何人か中華人民共和国からの亡命者もおりますが、本当に微々たるものです。

今回、非常事態だとして顔を出したウイグル人たちは、今後中国へ戻ったら、即お縄の状態になる。こういう人たちに日本国はどうできるのかということ、私はちょっと考えていきたいなと思います。

政府側にも言いたいことは、こういう日本政府の対応は、もう転換期に来ているのではないかということです。少なくとも、ああした人たちがウイグル問題を反中国の道具にするのは、日本にとっても全然良いことではない。

日本社会がこういう状況をどういうように解決していくか。私は、亡命者を受け入れるなりすべきだと思います。彼らが日本で自分の顔を出して堂々と主張ができる社会にしていきたいと思っています。

当局、亡命者側双方の数字に疑問あり

「世界ウイグル会議」側も、死者数3000人といっているのですが、私はちょっと根拠がないのではないかと考えます。中国当局側の死者180人という数字も、当局発表によると、漢人の死者が圧倒的多数です。2日前ぐらいの

段階で、漢人137人で、ウイグル人46人。

漢人の死者が74%と指摘されているのですが、もし人民広場でああいう発砲が行われたら、ウイグル人の死傷者がもっと多かつたはず。人民広場の発砲以外の各地で行われた暴行などでの死者を入れたとしても、現場から逃げ出したRFAでの証言などから考えて、中国当局の発表もおかしい。

3000人というラビアさん側の発表も、大いに検証が必要であると私は考えております。

質疑応答

司会・浜本良一企画委員（読売新聞社論説委員） どうもありがとうございました。（拍手）最新かつ独自の情報などを交えてお話しいただきました。1点だけお尋ねします。

中国共産党の新疆における少数民族政策の問題点について、ご説明下さい。

水谷 私個人の考えというか、検証から申しますと、1950年代にウイグル人の土地へ人民解放軍の兵隊がどっと入ってきて、彼らが居ついて、生産建設兵団などをつくっていったわけですね。その次、60年代になると文革期ですが、下放青年たちが大量に入ってくるわけです。新疆のような辺境の地に、都会の人間たちが追いやられて、そういう青年たちが大量に入ってくると同時に、50年代後半、60年代に飢饉が起こるのです。

新疆のバランスが、各時代時代で壊れて行くのです。次に、漢人の流入が顕著になって行ったのは、2000年の西部大開発以降です。西部大開発によって、自治区で大規模な投資が始まる。結局、恩恵を受けたのは漢民族が中心で、ウイグル人との経済格差は圧倒的に開いてしまったのが、不安定を生んだ最大の原因の一つであると思われまます。

昔はまだ貧しい中での平等であったけれども、2000年以降、貧しい者、富める者の拡大が起こっていったわけですね。

あの地域は中国で最も労働改造所や刑務所が多い地域でして、内陸部でかなり重い罪を犯した人たちが新疆に送られてくるということがあります。核実験場にされたことなどもあって、ウイグル人は、自分たちの土地がまるで中国の中のごみ捨て場のように扱われているという言い方をよくします。

それから文化面での破壊が、ここ数年急速に進んでいます。胡錦濤政権になってから、ここ数年の間に、幼稚園から大学までの各学校で、いままでウイグル語で教育を行っていたのが、すべて漢語で教育をすることになっている。

ウイグル人の教師たちが失職し、非常に程度の低い漢人の先生方も入ってきた。教育が荒廃したこともあり、ウイグル人知識人たちの間でかなり反発が起こっています。

漢民族たちとの格差の問題について、平等に見ようと努力していた人に、例えば北京の民族大学の教員、イリハム・トフティーという人がいる。こういう穏健派の人まで現在、中国当局は拘束している。漢民族の知識人でさえも140人以上が署名して、おかしいと当局に文句をいっている状況です。漢民族の中でさえも、この問題について意見を言う人が現れているということです。

我々日本人は、漢民族の中のそのような動きも、もう少し注視すべきだと思います。漢人が悪いと指摘するだけではなく、むしろそういう意見を持つ漢人たちに、もっと光を当てるべきだと思います。

最近、再開発の名目で、カシュガルなどの、日本でいえば京都のような町、ウイグル人の古くからの文化を保持している町が、ことごとく破壊されて更地になっています。

中国語でいえば「老城（ラオチャン）」というカシュガルの町が破壊されている。何年も長い間、イスラムの最高教育機関、大学のような存在である「ハンリグメドレセ」が更地にされたりとか、そういう文化的破壊も進んでおります。彼らの精神的な支柱であるイスラムのお祈りをささげるといふ行為も、公務員は絶対に禁止です。公務員がモスクにお参りに行ったら、

それだけで首になる。彼らの民族的アイデンティティーを保つための言語、宗教、文化、この3つがことごとく規制をされていることが、今回の暴動の背景にあると思います。

以前、反日暴動の取材をしたこともあることから思うのですが、江沢民時代に、一般の中国人たちに仮想敵を作り、内側の不満を外側にそらす政策を取った。文革期も、いろいろ仮想敵を作る階級闘争的な手法があった。

江沢民時代は仮想的は日本だったけれど、胡錦濤時代になってからは、仮想敵が少数民族の人たちに移っているのではないかと。チベット人やウイグル人であり、反政府的な思想を持つ少数民族は、たたいても構わない相手と考えている。今回のデモの対応などをみても、漢人の庶民にそう認識させてしまっているのは、国家としての崩壊を招くことなので、中国当局は民族政策を改めてもらいたいと、私は切に思っております。

1980年代の胡耀邦の時代、胡耀邦という中国共産党員は、いろんな民族に非常に好かれておりました。ウイグル人のみならず、チベットの人も、あるいは朝鮮族の人も、胡耀邦はよかったと言っています。

例えば胡耀邦は、少数民族の居住地に漢人を移住させることはさせなかった。ああいう指導者が、もう一回出てくることを望んでいるウイグル人も少なくありません。

ウイグル人には、「独立」を言わない人もいる。とにかくこういう状況から脱却したいと思っている人だっているわけで、そういう声を中国の政府が聞いてくれればなんと私は思っております。

質問 地方でウイグル人を出稼ぎに出すことが、権力者の手によって半ば強制的に行われているという報道があります。そういう人たちが不満分子として騒ぎを起こしたのではないかというお話もある。地方のウイグル人を出稼ぎに出すというのは、一体それはどういう目的なんですか。地方政権がやっていることですか、それとも漢族がやっていることか。どうもその

からくりがよくわからないので、ご説明いただきたい。

水谷 ウイグル人の活動団体は、強制連行だとか、いろいろな言い方をしておりますが、そこまでいい切っているものかどうか。どこまでが国が絡んで、どこまでが民間なのかということところは非常に微妙、あいまいです。

ウイグル人は漢語が下手ですから、さまざまな仕事に就くに当たって、漢人が主導の企業では、使い勝手が悪いわけです。ですから、ウイグル人が土地にいながらも、漢民族を内地から呼んで、漢族の企業などは新疆で働かせるわけですね。となったら、ウイグル人はますます仕事がない。単純労働、道路をつくるとかでも、漢人にやらせてしまう。余剰人口は、社会の不満要因となって危険なので、地域ごとに沿海部に集団で行かせて働かせようと。沿海部のほうも安い給料で雇えるわけですから、一石二鳥だという、非常に安易なことでそういうことが行われているようなんです。これをやったら人口バランスが崩れる。余計社会の不安定要因になると思います。

どういうように連れてこられたかということ証言するビデオなどはあるのですが、あくまでそれは連れてこられた人の証言であって、上層部の証言ではない。当局側がどこまでかわっているかということは、私も何とも申しあげられません。

質問 ウイグル人たちは、どんな外部情報にアクセスしているか。当局はネット規制も可能でしょう。ラジオ RFA も電波妨害が可能では。口コミが大変発達しているということはあるか。

日本にいる1000人のウイグル系の人たちは、どのような滞在資格の人が多いか。亡命申請者は、何人ぐらいいるか。

水谷 やはり現地の人同士では、圧倒的に口コミです。ウルムチの場合、ほかの地域と比べて発展していますので、インターネットのメールなどもよく使われているようです。携帯電

話もあります。ただ、6日の晩になったら、もうネットも電話もつながらないというような状態だったらしい。

例えば海外の、私も含め、あるいは RFA の人たちがどうやって情報を取っているかという話は、結構向こうの人たちが、1回だけ使って捨てるというようなチップを買って電話をかけている。

ほかにもいろいろな方法がある。直接海外に電話をかけたら、絶対検閲に引っかかって盗聴される。だったら、新疆から別の地域に住んでいる友人に電話をかけて、その別の地域、上海や北京から、海外に電話させる伝達リレーが行われているようです。

特に、情報を伝える相手はウイグル人だけとは限らないで、ウイグル人に同調する他の民族経由で情報が流れてくることもあります。

資格については、日本の場合、滞在資格は多くは学生ビザです。ただ、学生といっても、ウイグル人は大きな借金をして日本に来るわけです。この人間が本当に使い物になるのか、将来、金を返してくれるのかということを見極めるために、大学時代にきちんと勉強していたかとか見て、親族が投資する。年齢は普通の漢族よりも高い場合が多い。1人を海外に出したら、次から次へと送り出していくというスタイルです。

日本では企業に勤めているウイグル人というのも何人かいるのですが、数としてはそれほど多くない。また、日本の社会の中でウイグル人を雇う企業は、中国との貿易などをやっているところも多い。だから、ウイグル人としては、耐えられない場合もある。

ニューヨーク、ワシントン、あるいはカナダですとか、そういうところに日本経由で移っていくウイグル人も結構多い。行った先の国で日本語を使って仕事をしているケースも、最近は結構あります。

質問 2点お伺いします。漢人をどんどん新疆ウイグルに送り込むことは、現在も続いているのかどうか。

もう一点は、かつての「東トルキスタン共和国」の建国に際し、中華人民共和国が成立した後に、毛沢東が北京に「東トルキスタン共和国」首脳を呼びますよね。その際に、モスクワ側で、モスクワ経由で行きなさいというスターリンの意向で、首脳陣たちがモスクワへ行った途端に全員殺されてしまった話を聞いたことがある。信憑性がある話と思うがどうか。

水谷 新疆では石油だけじゃなく、天然ガス、レアメタルが採れますね。レアメタルに関しては、かなりいろいろなものが採れるらしく、開発は漢人が全部独占してかかっている。現在に至るまで移民の数は増え続けています。私もこういう状況は、満州国への日本人移民を想起して、とても嫌な思いをしてしまいます。

2点目ですが、「東トルキスタン共和国」の首脳だった人たちが、確かに当局発表では飛行機事故で死んだことになっていますが、実際は、旧ソ連領内で殺されたとの説があります。明確な資料が出てきていないので、何とも言えないのです。一旦、カザフに飛行機が降りたとか、モスクワに行ったとか、いろんな説がある。私にはその辺の信憑性は分かりません。

ただ、ウイグル人の高齢の方に話を聞いたことがあります。「東トルキスタン共和国」時代に兵隊だった人たちがいる。帰って来た遺体をみたという証言がある。飛行機事故だったら、遺体は肉片になっているはずですが、そうじゃなかったと。とても飛行機事故で死んだとは思えないという証言は、私が話を聞いたのは2人だけですが、あります。ただ、それも証拠の写真などが残っているわけではないので、何とも言うことができません。信憑性は、やみの中です。

質問 昨年チベット事件と今度のウイグル事件とを比較し、中国政府の対応に変化があるか。

水谷 チベット騒乱の時は、中国当局は情報を封鎖し、世界各国から非難を浴びた。今回は、一方的な情報を流して、また非難を浴びて

いる。良い悪いの問題ではなく、どちらもどちらだと思う。情報を封鎖するのではなく、自分の都合の良い情報だけ流してくるという点では、基本的には変わらないのではないかな。

明らかに死者の中にはウイグル人だっているわけですが、あそこまで意図的に漢民族だけを映すのはね。本当に自分たちだけが被害者だと主張するのなら、堂々と記者をどんどん入れたらいいんですよ。記者は自由に入れないが、自分たちの主張したい映像や情報だけは流すのは、基本的に私はチベットとそう変わらないというように思っています。

質問 ウイグル人と漢人の人口比の問題で、大量に流入しているというほかに、同化政策というのがあるんじゃないか。つまり、漢人とウイグル人を結婚させることによってウイグル人の存在を希薄化させていく、というような形の同化政策については、どのような政策をとっているのか。

水谷 最も同化が進んでないのがウイグル人だと思います。チベットにせよ、モンゴルにせよ、そこそこに漢人との婚姻というのがあるのですが、ウイグル人の場合、最大のネックは、やっぱりイスラム教です。女性は相手がイスラム教じゃないと絶対に結婚してはいけない。男性は、イスラム教徒以外の女性とも結婚できるけれど、漢人女性と結婚するケースは、経済格差もあって非常に少ない。

反対に女性は、相手の漢人がイスラム教に改宗してやるといって結婚したとしても、周りのコミュニティ、親戚が一同で相当嫌がる。

ある意味、ウイグル人が民族として保っていくために、イスラムのその辺の縛りというのが存在している。だから、同化させるために、イスラムは中国共産党にとって相当敵なわけです。最も混血、同化が進みにくい民族だと思っております。

司会 新疆内のウイグル人を沿海地区の工

場に送り込む会社みたいなものがあるか。当局がどこまで関与しているか。

水谷 送り出す会社があるかどうか、それから、会社ではなくて政府機関が直接やっているのかどうかはわからない。とにかく、いわゆるブローカーみたいなのがいることは確かです。証言ビデオがあるんですが、騙されて連れてこられたと主張する女性たちが、騙された相手は、やはり同じウイグル人なんです。家族も含めて全員を騙すことはできないので、漢人もいるのではないかなあ、とは思いますが。どこまで政府が関与しているかは別にして、彼らは本当に超安い給料で出稼ぎに行かざるを得ない状態に追いやられていることは確かです。これだけでも私は差別だと思っています。

司会 最後に、胡錦濤総書記は、地方の指導者たちを更迭して行くでしょうか。共産党は今後どう出てくると見えますか。

水谷 将来のことはわからないんですが。ただ、新疆ウイグル自治区党委初期の王楽泉は、もともと江沢民派ですよ。胡錦濤とは微妙な関係だということは言われている。いずれにせよ、これまでの指導者と違って、王楽泉は、不満を常に力で鎮圧してきたことによって、現在の彼の地位を保っていた人間です。これを使い続けていくのか、あるいは更迭して新たな指導者にするのか、いまは何ともいえない。今の政策を取り続けるのなら、首をかえても結局同じような人間が出てくるのでは。

根底から中国共産党が民族政策を変えたら、新しい人間が出てくるかもしれませんが、今の段階では何ともいえないですね。

司会 水谷さん、きょうはどうもありがとうございました。皆さん、拍手をお願いします。どうもありがとうございました。

(文責・編集部)